

## キーワード11 気持ちの理解

朝、Wさんが泣きながら登園してきた。

X教諭：「Wさんどうしたの？」

Wさん：「あのね、お母さんが…。」

X教諭：「お母さんに叱られたの？」

Wさん：「うん。」

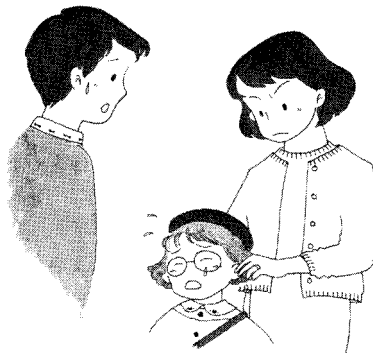
X教諭：「どうして叱られたの？」

Wさん：「朝、眼鏡がなかったの。それだけなのに叱られたの。」

X教諭：「眼鏡は、Wさんの大事なものでしょ。なくなったら困るし、知らないで踏んだら壊れちゃうし。だから、もっと大切にしてほしいと思ってお母さんは叱ったんじゃないかな。」

Wさん：「うん。」

降園時、X教諭は母親にWさんとの会話の内容を伝えた。X教諭が、「お母さんの叱り方では、気持ちがあまく伝わっていないのでは。」と話すと、母親は、「眼鏡のことだけで叱ったのではないんです。支度をしないでぐずぐずしているから叱ったんです。」と言い、「お母さんの言ったこと、全然分かってないじゃない。」と言い、Wさんの耳を引っ張った。Wさんはまた泣いた。



「気持ちを正しく理解する」のは、とても難しいものです。理解したつもりが、自分の思い込みだったり、自分に都合のよい解釈であったりする場合があることを忘れないようにしたいものです。

受け取った気持ちを相手に伝え、確認することが重要です。そうすることにより、相手の気持ちを正確に理解する感性が磨かれていきます。

### 推測による指導

この事例では、「眼鏡をもっと大切にしてほしいから叱ったんじゃない？」と、母親が叱った理由を推測しただけで、子供を説得しています。しかも自分の推測は正しいものだと思い込み、叱り方を批判したことで母親の気持ちを損ない、Wさんを混乱させています。こうした、推測による思い込みに基づいた指導は、親や子供の不信を招き、心を傷つけてしまいます。

### 矛盾した気持ちの理解

不登校の子供の中には、教師の訪問に拒否反応を示す子供がいます。ところが、しばらく連絡を控えると、自分が忘れられてしまったような孤独感や疎外感を抱き、不安を訴えます。

人の気持ちは、このように矛盾していることが多く、どちらも真実で、理詰めで押し量ることは危険です。矛盾は矛盾として、そのまま受け入れる態度や姿勢を身に付けることが大切です。